



津山サンタフェ友好協会 会長

江原 秀国さん (大田)

津山市とサンタフェ市（米国）の国際交流を進める同協会が平成6年に発足した当時から事務局長を務め、今年5月に会長に就任。平成11年に友好交流都市縁組を締結し、今年20周年を迎えるまで、数多くの訪問団の渡米と訪日を支援してきた。芸術のまち・サンタフェの建築様式を自身の事業所の建築に取り入れるなど、文化芸術への造詣が深い。現在63歳。



サンタフェとのこれまでの関わりは？

わたしは22歳から10年ほど学業のため、米国や欧州で生活していました。もともと文化芸術に関心があったため、津山に帰ってきてすぐに津山市文化協会に入会しました。「文化と芸術のまちづくり」という共通点で平成3年に交流が始まって以来、幾度もサンタフェを訪れ、現地の文化を津山に伝えています。

サンタフェはどのようなまちですか？

米国の中でも特に歴史が古いまちだといわれています。ロッキー山脈のふもとと高地に位置し、空気がとても澄んでいます。ニューメキシコ州にあるためスペイン系の人が多く、織物などの工芸品も残っています。毎年7～9月にかけてオペラハウスを中心に芸術祭が開催され、多くの芸術家に移り住むなど、「文化と芸術のまち」として有名です。

サンタフェとの交流を続けてきた中で感じることは？

交流が始まった当時は、大人が中心となって行き来していましたが、今では中学・高校生が交流の主役になっています。多くの若い世代の人が早い時期に異文化に触れ、世界を身近に感じる国際人として育ててほしいと願っています。また、サンタフェから訪れる子たちをホームステイで受け入れた津山の家庭の多くが、個人同士の交流を続けていることもうれしく感じています。

津山の皆さんにメッセージを

縁組みの締結を記念したコンサートを10月30日(水)に開催します。サンタフェなど世界で活躍する音楽家の演奏を聴くことができるので、皆さん、ぜひサンタフェの風を感じにご来場ください。(関連記事は8ページ)



米国の地図



サンタフェの特産品「スパニッシュ織」。縦糸は綿、横糸はウールでできている▶



▲米国の内陸に位置し、海が無いサンタフェの学生に、日本海を紹介する江原さん（平成30年6月）

数カ月前、グラスハウスの施設内を取材しました。多彩な設備やプールの種類の多さに、改めて魅力を感じました。そんなこともあり、今年の夏はグラスハウスのプールを数回利用しました。今月号からグラスハウスの割引券の掲載を始めました。27ページに載せています。皆さん、ぜひご利用ください。(W)

同窓会で小学生時代の友人に再会。昔、ムカデよけとして、我が家の柱に貼ってあった「茶」の字を逆にした貼り紙の話題に。誰に話しても聞いたことがないと言われたそうですが、子どもに話したら実践したと写真を見せてくれました。我が家だけのおまじないだったのかは謎ですが、次世代に伝わりました。(C)

「鮎あせを使って！第1回親子料理教室」を取材しました。実は、前の部署で鮎の振興を担当していた、どつしたら鮎の美味あじさが皆さんに伝わるかを考えながら過ごしていました。広報担当として、記事を書くことになり、不思議な巡り合わせを感じています。広報紙作りの大切さを知る良い機会になりました。(三)



編集・発行
津山市総合企画部秘書広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市北520

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp

広報紙は、環境保護のため再生紙と植物性インキを使用しています。読み終えた後リサイクル(資源)にご協力ください

☆津山市公式インスタグラム
https://www.instagram.com/tsuyama.city/

☆広報津山電子版
https://www.city.tsuyama.lg.jp/

☆津山市公式フェイスブック
https://www.facebook.com/citytsuyamakouhou